

Francis Poulenc (1899-1963)

„ Exultate Deo ”

F. プーランク「神を讃えよ」

祝祭の日に楽器を鳴らしながら、神に向かって賛美の歌を歌う。新月の夜、歓喜にあふれ熱狂した民衆が、月明かりに照らされている。

Exsultate Deo adjutori nostro,
Jubilate Deo Jacob.
Sumite psalnum
et date tympanum,
Psalterium jucundum
cum cythara.

Buccinate in neomenia tuba,
Insigni die
solemnitatis vestrae.

我々の保護者、神に喜び歌え
ヤコブの神を歓呼せよ
賛美の歌を歌え
太鼓を打ち鳴らせ
喜んで豎琴を弾き、賛美せよ

新月にラッパを吹き鳴らせ*
この日こそは
我々の厳粛な日だ(詩篇 81.2-4)

*プーランクのハーモニーのデリケートな変化に、はっと息をのむ。ハーモニーが持つ色彩や、輝きの濃度を変えることで、言葉の陰影を巧みに描いている。その響きの印象は20世紀初頭の画家、クレーやモンドリアンの抽象絵画を連想させる。

*ここから調が目まぐるしく変化し、宗教的興奮に達した後、無限の荘厳な世界が立ち現れる。